

2014S2-001 有機分子集合体の物性発現機構の解明とその最適化のための構造物性研究

Structural sciences for the understanding of the origin of physical properties and optimization of functions in the organic molecular assemblies.

実験組織

研究代表者 熊井 琴児(日本物質構造科学研究所PF & CMRC)

産総研FLEC(山田、巣廻、堤、野田、井上)、物構研CMRC(春木、小林、中尾、佐賀山、村上)、CROSS(中尾)、岡山大(近藤、野上)、東北大(野田、渡邊)、理研(賀川) 東大(佐藤、須波、宮川)、東大物性研(森、上田、古田、鈴木、沼尾、山田)

課題有効期間 2014年4月~2017年3月

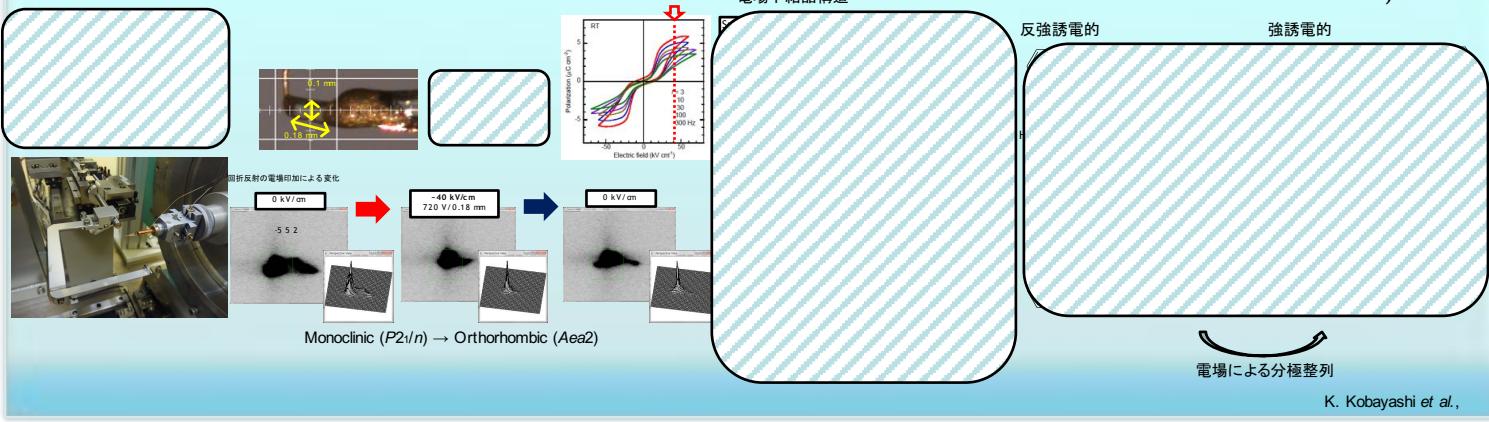
研究目的

種々の有機材料結晶(単結晶、あるいは薄膜)における電子相転移に伴う構造変化を精緻に観測することを目的とする。それぞれの結晶における精密構造解析、極限条件下(低温、低圧・高圧、電場下など)における構造変調などの知見に基づき、種々の物性(電気伝導性、磁性、誘電性、あるいはそれらの交差相關物性)発現機構を明らかにする。

実験ステーション BL-8A, BL-8B, BL-3A, BL-4C, BL-7C

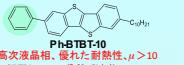
2015年度の進歩状況

水素結合系有機反強誘電体の電場誘起構造相転移



有機半導体材料の高機能化のための構造的知見からの分子設計指針の構築

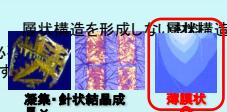
材料が解決すべき課題



+ プリントエレクトロニクス材料として

✓ 優れた溶解度

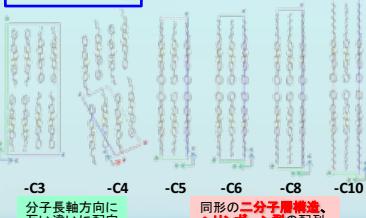
✓ 層状結晶性



✓ 高い輸送特性

アルキル鎖長と分子パッキング①

Ph-BTBT-C_nの場合



置換基効果の系統的評価



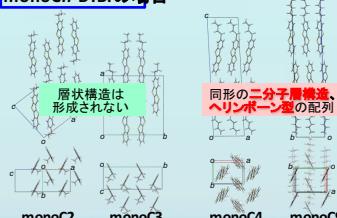
置換基が溶解度、熱物性、結晶構造に及ぼす効果を系統的に評価



- 分子パッキングのアルキル鎖長依存性
- 溶解度・熱物性への置換基効果
- 分子間力と移動積分の相関評価(計算科学)

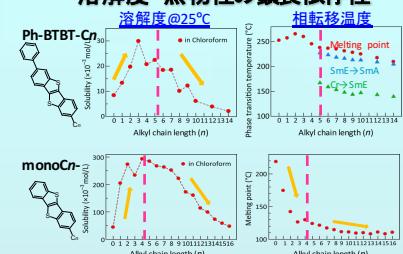
アルキル鎖長と分子パッキング②

monoCn-BTBTの場合



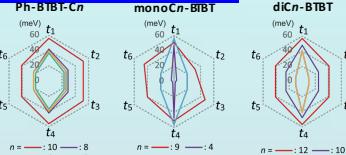
BL-8A, 8B, 7C

溶解度・熱物性の鎖長依存性



ヘリンボーン配列における鎖の効果

隣接分子のHOMO軌道間の移動積分値

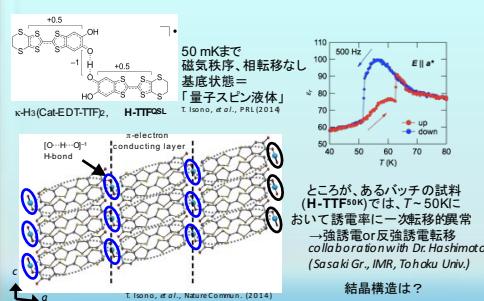


- 分子間相互作用の大きさとは異なる異方性を示す
- 鎖長によって移動積分の値は大きく変化する
- 鎖が長いほどヘリンボーン層内で等方的な値が実現

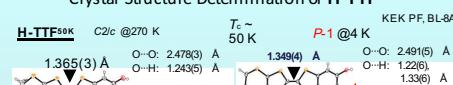
短いアルキル鎖では様々なパッキングが生じるのに対して、長鎖アルキルを導入した場合は層状構造を形成し、ファスター効果によって鎖間の凝集力が強くなる
アルキル基の長さに応じて溶解度の低下、隣接分子間の相互作用の増大が生じ、層内の移動積分はより等方的になる

水素結合を有する有機導体の構造と物性

Crystal Polymorphism in $\kappa\text{-H}_3(\text{Cat-EDT-TTF})_2$

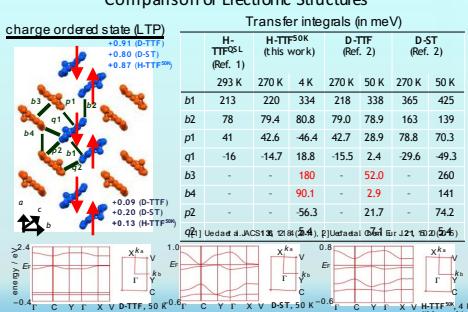


Crystal Structure Determination of H-TTF^{50K}



A. Ueda et al. JACS 136, 12944 (2014)

Comparison of Electronic Structures



主な発表論文・学会発表

1. 「ナノリテックス」外殻に向けた有機BTBT系有機半導体の開拓」、井上他、日本物理学会2015年次大会
2. 「プロトン電子相間有機導体X₃(Cat-EDT-TTF)2 (X = H, D)における圧力効果」、上田他、日本物理学会2015年次大会
3. 「新規Cat-TTF系有機導体-[H(Cat-EDT-TTF)]₂[BF₄]₂における電導・相転移・水素結合部の屈折率と伴う分子・物性・変化」、吉田他、日本物理学会2016年次大会
4. 「アルキル鎖有機導体(BEDT-TTF)2[Li₂(SCN)₂]における電導、由来の液体・固体転移、佐々木他、日本物理学会2016年次大会
5. 「アルキル鎖有機BTBT系有機半導体の単結晶構造分析: 分子パッキングおよび分子間・電子転移積分の系統的評価」、熊井他、日本物理学会2016年次大会